

第23回 中学生海外派遣報告



第23回幸田町中学生海外派遣（生徒13人、引率者4人）が8月17日から24日までの8日間の日程で、中国（南昌、北京、上海）を訪問しました。南昌第一中学校での体験入学やホームステイ、また世界遺産の見学を行いました。同世代の若者との交流を通して学んだこと、急速に発展している中国の街や歴史的遺産の見学を通して味わった感動を報告します。



万里の長城では、男坂のルートに行きました。最初はあまり急ではなく、話しながら楽しく歩くことができましたが、さらに上がったとき、腰を曲げないと後ろに転

じました。天安門では、テレビでよく見る建物が今、目の前にあると思うと何だか緊張しました。中華人民共和国を建国した毛沢東氏の肖像画があり、写真のように見える立派な肖像画が一年に一回替えられると聞き、驚きました。数えきれない人の中、中国の人もたくさんいました。外国からの観光客だけでなく、国内でも多くの人が訪れる場所なのだと思います。天安門の中を歩いていると、同じような建物が続き、そのすべてを見て回るのは1週間ぐらいかかると思います。その広さに圧倒されました。ごつごつとした石畳は明の時代のもので、ここでも中国の歴史を感じました。

中国の歴史的建築物



南部中学校
山本 有紗さん

今回私たちは、中国の歴史的建築物である勝王閣・天安門・万里の長城・豫園を訪れました。やはり中国と言えば、「赤」という感じで、赤い建物が多かったです。

びょうなほど急な坂になってきました。階段もすべてが同じ高さではなく、低い段もあれば、すごく高い段もありました。しかし、その登りつらい階段が、万里の長城が多くの人の手によって一段一段積み上げられたものであることを際立たせていました。約2000年もの気の遠くなるような年月をかけて築き上げられた壮大な万里の長城は、実際にそれに登ったことによって、さらに、中国という国の大きき、歴史の深さを感じさせてくれました。

今回の派遣を通して、たくさん歴史ある建物を見学させていただきました。どれも目で見て、肌で感じ、実際に歩くことで、中国の深い歴史に触れることができました。今回の経験を、今後の学習に生かしていきたいと思

第23回 中学生海外派遣団

〈幸田中学校〉

吹原 まり子、川崎 裕大、永井 碧、武内 拓巳、大竹 舞、山下 沙季

〈南部中学校〉

志賀 元洋、稲吉 宏隆、山本 有紗

〈北部中学校〉

金澤 さゆり、伊藤 汐里、原田 沙樹、渡邊 早紀

〈引率者〉

小野 伸之、小林 淳、小野 良 琢也、本多 宣子

順序不同・敬称略

ホームステイを通して



北部中学校
伊藤 汐里さん

私は今回のホームステイで、中国人の優しさ、人と人との心のつながりの深さを実感させていただきました。

日本語の通じない中で、自分たちだけで、本当に中国の家庭で生活できるの不安でした。しかし、ホストファミリーは、「自分たちもあなたの家族だよ。」と、優しく声をかけてくださり、私たちが心から受け入れてくださいました。言葉も違えば食文化も違います。生活にいろいろな違いがあり、驚きや発見の連続で戸惑うことばかりでしたが、その都度でいねいに英語で説明をしてくれました。なかなか言葉が理解できずに首をかしげていると、絵を描いて伝えようとしてくれました。そういった思いが、素直にすぐくうれしかったです。それから、私も日本や幸田町のことをたくさん伝えることができました。「伝えたい。」お互いがそう思える関係を築けたことは、国際交流の目的の一つ達成できたのではないかと思います。

日本と中国



の関係は、少し距離があるようですが、人と人は言葉の壁をも越えて、絆を築くことができました。お互いを思う気持ちに、国境は関係ないと強く感じました。

ホームステイ先のご家族、中国で出会った皆さんは、本当に優しくかったです。とても貴重で、素晴らしい体験ができ、とてもうれしいです。この貴重な体験をこれからの生活に生かすと共に、多くの人たちにも伝えていけたらと思います。ありがとうございました。

体験授業を通して

〜日本も負けていられない!!〜



幸田中学校
吹原 まりさん

今まで中国へ行ってきた先輩たちが口をそろえて、「中国の英語の授業は、レベルが高かった。」と言っていたので、「正直どうなのかな。」と、体験授業を受けるのをとても楽しみにしていました。

私たちが受けたのは、英語と美術の授業です。英語の授業では、先生は教室に入ってから英語しか話しませんので

日本では、まずないことだと思えます。どんなことをこれからするのか、その説明さえも英語でした。すべてが聞き取れたわけではないけど、単語だけは理解できたので、何とかついていくことができました。内容はスポーツについてでした。スポーツのプラカードを見て、何のスポーツかを当てたり、

ジエスチャーゲームをやったりしました。私は、「日本の底力を見せなきゃ。」と思い、たくさん発言をしました。間違ってしまったも、クラスみんなは優しく、とても温かい雰囲気の中で授業でした。

中国ではやっぱり卓球が人気らしく、日本の福原愛ちゃんのごときは、結構たくさんの方が知っているみたいでした。

美術では、日本の切り絵と中国の切り絵の違いについて学びました。日本と中国では、こだわるところが違って、そこで、国の文化の違いを感じました。また、生徒同士の意見交換で、中国の子が日本のことを褒めてくれたのが、とてもうれしかったです。

今回の体験授業を受けてみて、私は日本の学習が遅れているとは思いませんが、中国の方がレベルが高いと思いました。同じアジアの国として、また隣国として、肩を並べ、発展していくためには、日本も少しずつレベルを上げていかなければならないと思います。

今回の体験授業では、中国の同年代の子たちの考えを直接聞くことができ、とても貴重な体験となりました。



自分の目・耳・鼻などで

感じるよ!!



団長
小野 伸之 校長
(北部中学校校長)

第23回の幸田町中学生海外派遣団は、中国へ行ってきました。

この派遣の第一の目的は、中国江西省南昌市にある南昌第一中学校との親善交流です。過去二年間の相互交流の経験を生かし、お互いに積極的に交流することができました。英語の授業では、レベルが高いと聞いていた第一中学校の生徒と共に積極的に発言する幸田町の派遣団員を見て誇らしく思うことができました。

ホストファミリーとの交流や交流会でも、臆することなく堂々と交流していました。一生懸命練習した演技を披露したり、英語やこの訪中のために習った中国語を使って会話したりして、笑顔の交流ができました。

インターネットの普及により、外国のことが手に取るように分かる時代になってきました。そんな時代だからこそ、実際にその地に行き、自分の目や耳や鼻など全身を使って、その地を感じる事が大切だと思います。今回の派遣により、団員は、自分の五感を使って丸ごとの中国を感じてきました。この体験は、彼らの将来に活き、そして、それが幸田町の財産になると期待しています。ありがとうございました。